

ロシア東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年(平成15年)2月15日号 No.1252

目次

なぜロスネフチは石炭開発事業への参入を決断したのか.....	村部 興 1
エトセトラ	8
メンバーズ・ブリーフ「キルギスの外資導入とインダストリアルパーク」 / 8	
アゼルバイジャンに関するお得情報2本 / 8	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	9
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	9

なぜロスネフチは石炭開発事業への参入を決断したのか

はじめに

筆者は約3年にわたり在ユジノ・サハリンスク日本国総領事館に専門調査員として勤務した立場上、明らかに読者の方々の関心を引くであろう「サハリン・プロジェクト」のような本邦内外での利害関係者が多岐にわたる現在進行中の案件については、その及ぼす影響の大きさ等を考慮して今回はあえてこれに触れることは避けた。そのようなわけで、本邦における利害関係者が少なく、かつ、多少時間的に古くとも今日でも十分に読むに耐える内容を有するテーマとして選んだのが本稿である。情報が氾濫する中で、取り立てて注目されることもなく人々の記憶の中から消え去ったと思われるロシア辺境の地サハリンでのひとつの出来事を、彼の地での実体験を織り交ぜつつご紹介したい。筆者のサハリン在勤中のひとつのエピソードとして、また、ひとつの物の見方として御理解、御一読たまわれれば幸いである。

2001年4月16日、ロシア国営石油会社ロスネフチは、サハリンでの石炭開発事業への参入を正式に発表した。当然のことながら、本来異業種であるはずの石炭開発事業へのロスネフチの参入はサハリンでも様々な憶測を招いたが、サハリンの有識者の多くはロスネフチの石炭開発事業への参入の動機を明確に理由付けすることができなかった。このあたりの事情は、ロスネフチの動きを論評した次のようなサハリン主要マスコミの報道振りに集約されているものと思われる。すなわち、ロスネフチの正式発表を受けたサハリンの主要マスコミは、ロスネフチの石炭開発事業への参入決定の裏に隠された真意を図りかねたのか、ロスネフチがサハリンでの石炭開発事業への参入を正式に発表した当日がたまたまファルフジノフ・サハリン州知事の誕生日と重なったこともあって、「サハリンの原油・天然ガス開発で収益をあげ